



今月のデスク活動

個別相談を実施中！

まだまだ肌寒い季節ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

大きなイベントとはございませんが、引き続き企業様からのご相談をオンラインでお受けしております。

今回も、相談を希望された企業様のケースを皆様へシェアいたします。

【相談事例①】

食品メーカー様「SDGsを意識した商品の販路開拓がしたい」

⇒利用メニュー 販路開拓支援（情報収集）

シンガポールと台湾向けにうどんを売って行きたいとのご相談でした。うどんは現地でも販売はされておりますが、同企業様のオリジナルアレンジをされた商品はなじみがありません。そこで現地の食文化も取り入れた「売り方」を目指し、使用用途を日本に縛られないレシピと共に売り出すご提案（「うどん」ではなく、パスタとして売り出す等）をさせて頂きました。

SDGsにも取り組まれている企業様でしたので、現地事情をお話させて頂きつつ、今後の販路となるターゲットを知る為に、類似商品の価格・味・販売店などの情報収集をし、レポートにまとめさせて頂きました。

調査例：シンガポールのうどん市場

うどん市場概要

- 2017年シンガポールにおける米、麺、パスタの市場規模は\$431,000,000で、麺のみでは\$93,100,000。
- うどんを含めた麺類の価格は近年わずかに上昇。
- シンガポールでは近年ダイエット志向が強まり、米の需要が低下したため、麺類の需要の伸び率が最も高い。
- スーパーで販売されているうどんは、30種類以上。うどんを専門とする飲食店は現在20店舗以上もある。
- 販売されているうどんのほとんどが輸入製品。主な輸入国は、日本、韓国、マレーシア。



トレンド

- シンガポールには様々な宗教の人がいるため、袋麺はハラール認証されている商品も多い
- カレーうどんが多く、南国フルーツ入りという斬新なカレーうどんを提供するお店もある



市販のうどん製品の種類と価格（ローカル・外資系）

 Fortune-Japanese Udon (シンガポール産) 価格：\$3.2 容量：600g	 Samlip-Fresh Udon (韓国産) 価格：\$0.8 容量：200g	 Fairprice-Fresh Udon (韓国産) 価格：\$2.6 容量：600g
 Meadows-Japanese Style Udon (韓国産) 価格：\$2.4 容量：600g	 L.G.-Fresh Japanese Udon (マレーシア産) 価格：\$1.1 容量：200g	 Bon Go Jara-Nama Udon (韓国産) 価格：\$1.0 容量：200g

【相談事例②】

食品メーカー様「海外向けの新商品を開発し、販路開拓がしたい」

⇒利用メニュー 事前準備支援（情報収集）

シンガポールと台湾に向け、新たに商品を開発し売り込んでいきたいとのご要望がございました。海外への販路開拓への取り組み

は初めてとの事で、まずは同種の製品についてご説明。現地でポピュラーな食材ですが、言い換えると国内・海外産含め「競合」が非常に多い商品の為、“特徴”をしっかりと出す商品を作っていくべきだとお話させて頂きました。

開発のための参考となりますように、まずは類似製品が現地ではどのように食されているのか。加えて、現地での販売価格、商品を取り扱う商社のピックアップ、農薬等の規制を現在調査しております。

デスクでは、「これまで海外への取り組みをした事が無く、何から取り組めばいいのかわからない」、「自社商品って海外にもあるの？」のような、“ちょっと海外に興味がある”という企業様も大歓迎です！本年度も残り少なくなって参りましたので、是非この機会にご相談くださいませ。

(文責：株式会社日本アシスト 大畑 満帆)

現地からお届け！ 最旬情報 -ベトナム編-

新型コロナの影響で渡航が出来ず、現地の生の情報がリアルタイムで入って来ることが難しくなっていました。そんな皆さまの為、毎月各国の「旬」な情報を現地からお届けいたします！第6回はベトナムデスクよりお届け。最新のベトナムの状況、経済ニュースなど、疑問にお答えします。



「新年を迎えるベトナムの様子」

Happy New Year

1月下旬現在、ベトナムは1年で1番のビッグイベントとなる旧正月（テト）前となり、年末を迎えています。ベトナム（特に南部のホーチミン）は、常夏の気候で1年中暑いため、日本のように季節の変化を感じる事が少ないのですが、毎年この時期になると街全体が年末・お正月ムードに包まれ、ゆったりとした時間が流れます。

旧正月（テト）の時期は毎年変更となりますが、今年は1月20日～1月26日までの7日間がテト休暇となっています。

写真は現在のホーチミン市内の様子です。ホーチミン市1区の歩行者天国グエンフエ通りは「フラワーロード」となり、沢山の花とその年の干支をモチーフにした装飾で彩られ、毎年約100万人が訪れる名物スポットとなっています。街中のビルや店舗もお正月用の飾り付けがされ華やかな雰囲気ですが、写真を見て何か違和感はありませんでしょうか？やたら猫が目につきますね。そうです、干支が違います。今年ベトナムは猫年となります。





なぜ「卯」が兎ではなく猫になったのかは諸説ありますが、「卯」の中国語の発音 mǎo（マオ）がベトナム語の mèo（メオ、猫）に近いこと、ベトナムで兎は馴染みが薄く、米を食べる鼠を追い払ってくれる猫がより身近な存在であったことなどから猫に置き換えられたのでは、とされています。

よく知られている十二支の物語は、神様が「1月1日に新年の挨拶に来た動物を先着12番目まで順番に十二支にしよう」と動物たちに伝えたが、日付を忘れてしまった猫は鼠に騙されて1月2日に出向いたため十二支に入れなかった、というのですが、ベトナムの猫は鼠に騙されなかったようですね。

2023年のベトナム経済

さて、そんな猫年のベトナム経済ですが、政府は2023年のGDP成長率6.5%を目標とし、引き続き高成長を目指しています。一方で、ベトナムのビジネス現場からは景気減速の気配を感じています。欧米の景気低迷による消費財の発注低下で操業を停止する工場が増加しているようです。また、新規不動産開発の低迷により不動産・素材・建設産業にも影響が出てきており、2023年は景気後退に注意が必要です。日本は卯年であり、相場の格言は「跳ねる」と言われています。ベトナムも景気後退とならず、今年も着実に経済成長する良い1年となることを願っています。

(文責：MAI INTERNATIONAL ASSOCIATES JOINT STOCK COMPANY 梅田 伸之)